

ビタミンKの投与に加えて、ママにもできる赤ちゃんへの出血症予防対策

母親がビタミンKを多く含む食品を摂ることで、母乳中のビタミンK濃度が高くなることが知られています。

ビタミンKを多く含む食品

●鶏卵●

特に卵黄

●緑黄野菜●

ほうれん草、ブロッコリー、パセリ、三つ葉、春菊

●乳製品●

マーガリン、バター、チーズ、ヨーグルト

●肉類●

鶏肉、牛肉、豚肉の順に多い

●納豆●

欧米人と比べて日本人の血液中のビタミンK濃度は高く、それは納豆摂取が関与していると考えられています



*食品摂取によるビタミンK濃度増加には個人差があり、これらの食品を多量に摂取することだけで赤ちゃんの出血症の予防になることはありません。

ビタミンKのKって、
ドイツ語で「血液を固めること」を
意味するCoagulationの頭文字に
由来するんだって★



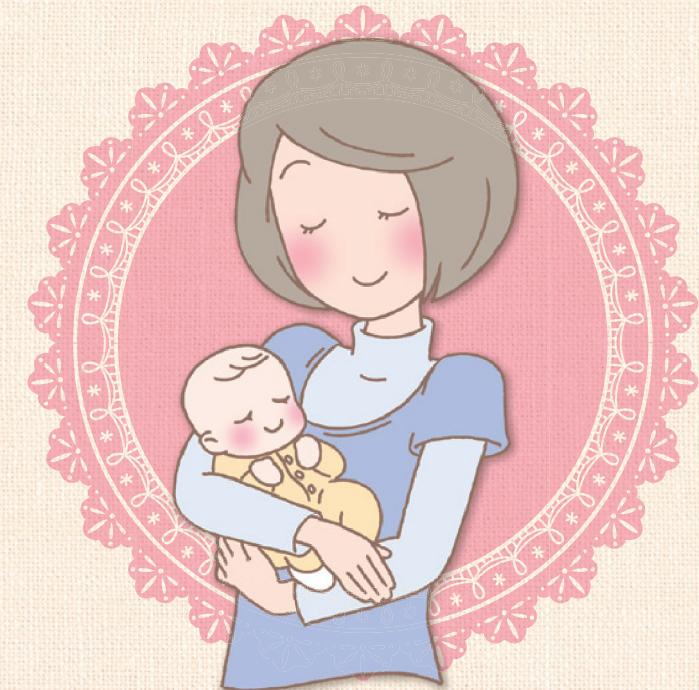
ご不明な点は主治医または
看護師、薬剤師にご相談ください。

医療機関名:

エーザイ株式会社

KTZ1002DKA
2018年4月作成

知っていますか? 赤ちゃんへの ビタミンK投与



監修・作成

聖路加国際大学 教授 片岡 弥恵子
助産師 杉岡 寛子
産業医科大学 名誉教授 白幡 聰

KTZ1002DKA



赤ちゃんへの ケイツーシロップ (ビタミンK₂シロップ剤) 投与について

ケイツーシロップは、赤ちゃんに起こりやすい出血を防ぐためのお薬です。ケイツーシロップ1mLあたり、ビタミンK₂を2mg含んでいます。

これまで、日本の多くの産科施設では、赤ちゃんに対してケイツーシロップを合計3回(1回目:出生後、哺乳が確立したらすぐに、2回目:生後1週または産科施設退院時のいずれか早い時期、3回目:生後1ヵ月時)、各1回1mLを投与して、ビタミンKの欠乏を防いでいます。この方法でほとんどの赤ちゃんのビタミンK欠乏を予防できますが、中には3回投与しても発症する赤ちゃんがあるので、生後3ヵ月まで(ミルクを飲んでいる赤ちゃんは生後1ヵ月まで)毎週1回ケイツーシロップを投与する方法も勧められています。1回1mL(ビタミンK₂ 2mg)という量は、赤ちゃんが必要とするビタミンKを十分に補える量といわれています。

ビタミンKはどうして 必要なの?

血管が傷ついた時、出血を止めるためには、血液を固めるために必要な物質「ビタミンK」が不可欠です。ビタミンKが欠乏すると出血が止められません。

大人では大腸の中にいる細菌(腸内細菌)が作ったビタミンKが利用されるのでビタミンK欠乏になることはめったにありません。

なぜ、赤ちゃんはビタミンKが不足しやすいの?

お腹の中にいる赤ちゃんの腸には細菌がないので、必要なビタミンKは胎盤を通してお母さんから受け取っています。しかし、ビタミンKは胎盤を通りにくいため、生まれてきた時の赤ちゃんの体の中には、大人の5分の1の量のビタミンKしかないといわれています。

化血研所報 黎明, 21: 58~62(2012) [KTZ-1440]



また、生まれてからもすぐには十分な量の細菌が住みつかないので、母乳やミルクからビタミンKを摂る必要があります。ですから、赤ちゃんの哺乳量が少なかったり、母乳中のビタミンKの量が少ないと、ビタミンKの欠乏をきたしてしまうのです。

ビタミンK欠乏症は いつ起こりやすいの?

ビタミンKが欠乏することで起こる出血症には、発症時期により大きくふたつに分かれます。

●新生児ビタミンK欠乏性出血症

生まれてから7日までに起こります。特に生後2~4日目に起こりやすく、消化管での出血が多いため、血を吐いたり、便に血が混じったりします。

●乳児ビタミンK欠乏性出血症

生まれてから3週~3ヵ月の間に起こります。この時期の出血症では、8割以上が頭の中に出血するため、不機嫌、嘔吐、けいれんなどの症状が見られます。

ビタミンKを投与しないと、どのくらいの確率で出血が起ってしまうの?

●新生児ビタミンK欠乏性出血症

約0.35%の確率、すなわち約300人に1人の割合で起こると推定されています(2003年)。

●乳児ビタミンK欠乏性出血症

ビタミンKの予防投与が始まる前の全国調査*では約4000人に1人(母乳哺育児に限ると1700人に1人)という結果でした。

*1978年~1980年調査:
化血研所報 黎明, 21: 58~62(2012) [KTZ-1440]

ビタミンKを予防投与すると、
どのくらいの確率で
出血症を防ぐことができるの?

●新生児ビタミンK欠乏性出血症

最近の調査で、生まれた直後の赤ちゃんに適切にビタミンKを投与することで、生まれてから1週の間に起こるビタミンK欠乏性出血症をほぼ完全に防ぐことができると報告されています。

●乳児ビタミンK欠乏性出血症

初めに述べた3回のビタミンK投与の普及で、約5万人に1人となり、発症する割合は10分の1に減りました(1991年)。また、週1回ビタミンKを予防投与された赤ちゃんの中から乳児ビタミンK欠乏性出血症の発症がみられなかつたという報告もあります。

Shearer, M. J.: Vitamin K deficiency bleeding(VKDB) in early infancy. Blood Reviews, 23: 49-59, 2009 [KTZ-1439]